

主催 邦楽連合会

社団法人 義太夫協会

中央区銀座4-13-11 文明堂3F
電話 三五四一-一五四七

清元協会

世田谷区桜ヶ丘4-9-18
電話 三七〇六-一九五二

財団法人 古曲会

中央区銀座8-6-3 新橋会館
電話 三五七一-〇二一六

新宿区大久保2-23-2
電話 三〇〇一-四六五三

常磐津協会

港区南青山5-13-3
電話 三四〇七-七四五三

社団法人 長唄協会

中央区銀座2-11-19
電話 三五四二-一六五四

社団法人 日本三曲協会

港区赤坂2-15-12
電話 三五八五-一九一六
(五十音順)

後援 東京都

平成十一年三月十三日(土) 朝日生命ホール

第一部 正午開演 三時半終演
第二部 午後四時開演 七時半終演

'99 都民芸術フェスティバル

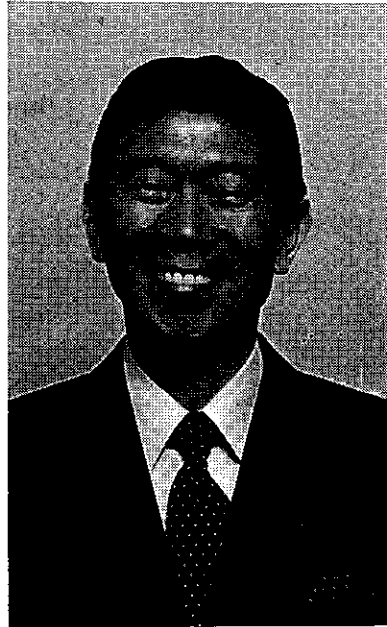
第二十九回 邦楽演奏会

— 邦楽名曲選 —

99 都民芸術フェスティバル公演一覧

分野	種目	演目	公演数	期日・会場	入場料金	スタッフ	主な出演者	問い合わせ先
音楽	オペラ	ワーグナー作曲 「タンホイザー」全3幕 (二期会)	3回	2/25・2/26・2/27 新国立劇場 オペラ劇場	18,000円 5 2,000円	指揮:ヨシ・カズ 演出:西澤敬一 装置:尾尾幸男 衣裳:緒方規矩子	ソプラノ:成田勝美/星洋二 リハー:島崎智子/蔵野蘭子	㈱二期会オペラ 振興会 ☎03-3796-1831
		プッチーニ作曲 「ラ・ボエーム」全4幕 (藤原歌劇団)	4回	3/3・3/5・3/6・ 3/7 新国立劇場 オペラ劇場	26,000円 5 2,000円	指揮:五十嵐喜芳 指揮:スズキ・フミ 装置:ベッペー・トマージ	ソプラノ:ミズノ・フミ リハー:出口正子 ソプラノ:山口正子 ソプラノ:佐野成宏	㈱日本オペラ振 興会 ☎03-5466-3181
		リーム作曲 「狂ってゆくレンツ」 1幕	3回	3/27・3/28・3/29 新国立劇場小劇場	12,000円 5 4,000円	指揮:若杉 弘 演出:美相寺昭雄	ソプラノ:丸山 暁 ソプラノ:橋本 由紀 ソプラノ:橋本 由紀	東京室内歌劇場 ☎03-3431-7875
音楽	オーケ ストラ	オーケストラ・シリーズ No.30	9回	東京芸術劇場 大ホール 1/29 2/10 2/13 2/15 2/25 3/5 3/12 3/16 3/21 3/29	3,500円 5 1,500円 セット券 28,000円 (A席限定 200席)	指揮:野村浩将 指揮:東京交響楽団 指揮:読売日本交響楽団 指揮:新日本交響楽団 指揮:NHK交響楽団	指揮:飯守泰次郎 指揮:矢崎彦太郎 指揮:栢田俊明 指揮:岩城宏之 指揮:渡邊一正 指揮:大友直人 指揮:沼尻竜典 指揮:リコ・チャカニ 指揮:ケラ・ムト	㈱日本演奏連盟 ☎03-3437-6837
		永遠のラテン名曲集	1回	3/9 よみうりホール	2,500円	演出:永田文夫	有馬徹 / ノブ・ケル 高英男 / 深緑夏代	㈱日本音楽家協 会 ☎03-3585-3903
		シャンソンハイライト '99	1回	3/10 よみうりホール	2,500円	演出:永田文夫	上里知己グループ 高英男 / 深緑夏代	同上
邦楽	邦楽	スタンダードをあなたに 〜ジャズ〜	1回	3/11 よみうりホール	2,500円	演出:瀬川昌久	原信夫とシャープス&フラフ ジョージ川口	同上
		第29回邦楽演奏会	2回	3/13 朝日生命ホール	2,000円			日本三曲協会 ☎03-3585-9916
演劇	演劇	「エレジー - 哀歌 -」	15回	3/4 ~ 3/17 紀伊國屋サザン シアター	5,250円	作・演出: 清水邦夫	名古屋章 / 松本典子 安原泰人 / 黒木里美 磯部勉 他	㈱日本劇団協議 会 ☎03-3341-8151
		ミュージカル「ザ・ヒーローズ」 ①「くまのじいさん」 ②「くまのじいさん」 ③「くまのじいさん」	26回	3/19 ~ 3/31 新宿中央公園「水の 広場」特設テント	前4,000円 前4,500円 前9,900円 前12,000円	演出:鶴山仁 脚本: エドワード・マックス 王偉 / 清水明彦	日本児童・青年 演劇劇団協議 会 ☎03-5353-6821	
舞	バレエ	「ドン・キホーテ」 全3幕	3回	2/4・2/5・2/6 ゆうほうと 簡易保険ホール	10,000円 5 4,000円	再演出・振付: 谷桃子	ソプラノ:藤田美津子 ソプラノ:藤田美津子 ソプラノ:藤田美津子 他	㈱日本バレエ協 会 ☎03-3499-5524
		バレエ 「ドラゴン・クエスト」 全2幕	2回	1/23・1/24 ゆうほうと 簡易保険ホール	8,000円 5 3,000円	演出・振付: 鈴木稔	白の勇者:西島千博 黒の勇者:遠藤康行 女王:藤川 麗	㈱スターダンサ ーズ・バレエ団 ☎03-3401-2293
		「白鳥の湖」 全4幕	3回	3/5・3/6・3/7 新国立劇場 中劇場	8,000円 5 6,000円	演出・振付: 石田種生	ソプラノ:安達悦子 / 池田雅美 ソプラノ:志村昌宏 / 賀純	東京シティ・バ レエ団 ☎0424-85-2915
踊	現代舞踊	「狐火の森」 「白昼の天使たち」 「レインボーブリッジ」	2回	2/6・2/7 東京国際フォーラム Cホール	5,000円 5 3,000円	振付:森谷紀久子 津田幸子 藤・藤:河野潤 藤・藤:藤 千	森谷紀久子 津田幸子 藤木律子	㈱現代舞踊協 会 ☎03-3400-4544
		第42回 日本舞踊協会公演	6回	2/15・2/16・2/17 国立劇場 大劇場	5,000円	振付:藤川 麗 藤川 麗 / 藤川 麗 藤川 麗 / 藤川 麗	花柳路楽 / 坂東三郎 花柳路楽 / 高濱流光 猿岩清方 / 西川扇蔵	㈱日本舞踊協 会 ☎03-3533-6455
伝統 芸能	能	第26回都民能 能楽 謡曲	1回	1/16 国立能楽堂	4~3千円			㈱能楽協 会 ☎03-3574-6441
		第39回式能 能楽 謡曲	1回	2/21 国立能楽堂	6~3千円			同上
		第30回 東京都民俗芸能大会 =東京都民俗芸能大会=	2回	3/6・3/7 東京芸術劇場 中ホール	無料招待 のみ		祭囃子2 / 神楽1 鳥しよ2 / 風流2 獅子舞2 / 太神楽1	東京都民俗芸能 振興会 ☎03-5978-3651
芸能	寄席芸能	第29回 都民寄席	10回	2/14 新国立劇場-42 2/16 神津島 / 17 大島 2/27 日の出町公民館 3/5 藤川 麗ホール 3/6 八王子市民会館 3/9・3/10 小笠原 3/18 神奈川代官(4神席) 3/19 町田市民ホール	無料招待 のみ		東家三楽 春風亭小柳枝 春風亭柳昇 三遊亭円歌 柳家小さん 桂南喬 鈴々舎馬風 桂米丸	都民寄席実行委 員会事務局 ☎03-5286-0876

99 都民芸術フェスティバルの開催に寄せて



東京都知事 青島 幸男

今年も、都民芸術フェスティバルの季節が巡ってきました。
この都民芸術フェスティバルは、質の高い芸術文化に触れる機会を広く
都民の皆さんに提供するとともに、東京における芸術文化活動の振興を図
ることを目的として、東京都が芸術文化団体の公演に対して助成を行い、

開催するものです。本フェスティバルが今回で三十一回目を迎え、今やすっかり東京の新春を彩る恒例行事として定着して
きましたのも、関係団体の皆様のご理解、ご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

芸術文化は、人々の心を豊かにし、日々の暮らしに潤いをもたらしてくれるとともに、都市の活力と魅力の源泉ともなる
ものであります。東京都は、都民の皆さんがこうした素晴らしい芸術文化に親しむことができるよう、今後とも文化事業を
推進し、芸術文化の香り高い生活都市東京の実現に努めてまいります。

都民の皆さんには、新春の一月十六日から桜のほころぶ三月三十一日まで、音楽や演劇、舞踊、伝統芸能などの各分野に
わたる多彩な芸術文化を心行くまでお楽しみいただきたいと思います。

終わりに、本フェスティバルに参加していただいた邦楽連合会の皆様の、一九〇〇年代最後を飾る公演のご成功と今後の
ますますのご活躍を心から期待しております。

第一部 番組 (正午開演)

一、清元筐花手向橘 (吉原雀)

淨瑠璃	清元	延栄一	三味線	清元	延八寿美
同	清元	延正路	同	清元	延秀喜之
同	清元	延古摩寿	上調子	清元	延志寿佳
同	清元	延八千代			

二、一中節石橋

淨瑠璃	都	吉中	三味線	都	一中
同	都	了中	上調子	都	樂中

三、義太夫壺坂觀音靈驗記 (壺坂)

淨瑠璃	竹本	朝重	三味線	鶴澤	津賀寿
同	竹本	駒之助			

四、新内節千日寺名残鐘 (三勝)

淨瑠璃	富士松	加賀	三味線	新内	勝一朗
美濃屋			上調子	鶴賀	喜代寿郎

五、常磐津 両 顔 月 姿 絵 (双 面)

浄瑠璃	常磐津	須磨太夫	三味線	常磐津	一寿郎
同	常磐津	初勢太夫	同	常磐津	絃寿郎
同	常磐津	和洗太夫	上調子	常磐津	美寿郎
同	常磐津	和香太夫			

六、長 唄 外 記 猿

唄	柏	庄太郎	三味線	杵	三
同	松島	藤次郎	同	杵	屋
同	杵家	弥佑	上調子	杵	屋
				勝	一郎

七、三 曲 都 の 春

山 勢	山 勢	真 鍋	西 郡	島 村	中 田	草 柳	渡 辺	萩 原	高 橋	山 脇	仲 山	長 田	石 見	谷 野	中 野	高 橋	森 田
司 都 子	静 勢	順 勢	由 勢	一 勢	暢 勢	好 勢	加 勢	美 勢	奈 勢	純 勢	一 勢	満 勢	和 勢	千 勢	衣 勢	惟 勢	
三 弦	佐 藤 俊 勢	長 坂 譜 勢	近 藤 千 勢	小 西 明 勢	武 田 祥 勢	加 藤 貞 勢	鈴 木 鼎 童	尺 八									

第二部 番組 (午後四時開演)

一、三曲 笛吹き女

深尾須磨子 作歌
中島靖子 作曲

唄 山岸雅昇
箏 中島靖子
十七弦 宮本雅都貴
篠笛 坂田梁山
尺八 酒井梁山
鼓 堅田喜俊

二、河東節 助六所縁江戸桜(助六)

浄瑠璃	山彦節子	三味線	山彦千子
同	山彦久江	同	山彦奈加
同	山彦祥子	同	山彦登和子
同	山彦音枝子	上調子	山彦さち子
同	山彦百子		

三、新内節 鬼怒川物語・下(かさね身売り)

浄瑠璃	鶴賀伊勢太夫	三味線	新内誠十郎
上調子	鶴賀伊勢一郎		

四、常磐津 花舞台霞の猿曳（うつぼ猿）

浄瑠璃	常磐津	和佐太夫	三味線	常磐津	文字蔵
同	常磐津	初勢太夫	同	常磐津	絃寿郎
同	常磐津	光勢太夫	上調子	常磐津	斎蔵
同	常磐津	和洗太夫			

五、義太夫 義経 千本桜 — 鮎屋の段 —

浄瑠璃	竹本越道
三味線	豊澤源平

六、清元 道行故郷の春雨（梅川）

浄瑠璃	清元	初栄太夫	三味線	清元	秀二郎
同	清元	栄志太夫	同	清元	三之輔
同	清元	清栄太夫	上調子	清元	雄二郎

七、長唄 外記節 石橋

唄	和歌山	富司郎	三味線	杵屋	彌吉
同	和歌山	富太郎	同	杵屋	弥四郎
同	和歌山	富朗	同	杵屋	弥宏次
同	杵屋	弥五郎	上調子	稀音家	助三朗

囃子

笛	梅屋	幸之助
小鼓	梅屋	小三郎
立鼓	梅屋	福三郎
大鼓	梅屋	勝彦
太鼓	梅屋	勝良次

曲目解説(演奏順)

解説 竹内道敬

第一部

一、清元 花手向橋 (吉原雀)

三升屋二三治作詞、初世清元齋兵衛作曲。文政七年(一八二四)二月、江戸市村座初演。長唄の「吉原雀」の歌詞を少し改め、前後に新しく足したもので、江戸吉原をひやかす客のようすを描いた作品。今ではわかりにくい言葉もあるが、爛熟した時代色が感じられてたのしい。一中節「傾城浅間嶽」の鳥尽しを加えているのが長唄と違う特色。

二、一中節 石

橋

作詞者未詳、初世都一広作曲。明治二十六年(一八九三)開曲。同名の謡曲によったもの。イロ詞に巧みで、獅子の登場にも特色があり、クルイは運びが早く上品である。明治期一中節の代表曲。「石橋」とは文殊の浄土清涼山にかかる橋で、行いました人でなければ、たやすく渡ることができない。唐へ渡った寂照法師が、そのふもとで所の者にそのいわれを聞くうちに、やがて獅子が出現して、めでたく舞い納めるといふ筋。

三、義太夫 壺坂 観音靈験記 (壺坂)

明治十二年(一八九七)十月、大阪大江橋座で六世豊竹島太夫により初演。明治初年に書かれた作者不明の浄瑠璃「観音靈場記」の一部「壺坂寺沢の市住家の段」を、二世豊沢団平夫婦が改作・作曲したもの。ただし現行曲は、団平がその後さらに改作・作曲したもので、明治二十年二月に大阪彦六座で上演したもの。盲目の沢市は女房お里のことを思い遣り、はかなんで谷に身を投げる。それを知ったお里は、あの世でも手を引く人がいないと困るだろうと、沢市のあとを追うまで。このあと観音があらわれ、二人を助け、沢市の目も開くという靈験をあらわす場面があるが、今日は時間の都合で省略する。明治期の新作ではもつとも人氣が高い作品。

四、新内節 千日寺名残鐘(三勝)

初世鶴賀若狭掾作曲。原作は義太夫節「女舞剣紅楓」の五段目。茜屋の半七は、お園という女房がありながら、五年前から踊り子の三勝となじみ、お通という子まである。その三勝のところへ半七の母が訪ねてきて、半七と別れてくれと頼む。三勝のクドキ「一夜流れの仇夢も」がよく知られている。

五、常磐津 両顔月姿 絵(双面)

木村田夫作詞、岸沢九藏作曲。寛政十年(一七九八)九月、江戸森田座初演。謡曲「二人静」に原形の見える双面の趣向は、近松門左衛門の「双生隅田川」の影響を受け、「隅田川続傳」で法界坊ものとして完成する。

「双面」というのは、まったく同じ姿をした人物が、二人同時に舞台にあらわれるという趣向で、その一人あるいは両方が亡魂のなせるわざで、その正体を見破るために、かつて一緒に踊った踊りを踊らせるというもの。この常磐津はその代表曲。

六、長唄外記 猿

本名題「外記節猿」。文政七年(一八二四)七月、外記節の復活を考えた四世杵屋三郎助(十世六左衛門)が作曲。作曲者が申歳生れでこの年が申に当るので、この曲を作曲したものであろう。

猿回しが小猿を背負って出て、お屋敷に呼ばれ、猿回しの芸を見せるといふもの。中ではお馴染みのお染久松の祭文や、当時の流行り唄などを唄い、小猿に踊らせ、おしまいには春駒の見立てになり、めでたく祝言を舞うまで。

七、三曲都の春

鍋島直大作詞、初世山勢松韻作曲。明治二十三年(一八九〇)東京音楽学校の開校式に初演された。明治という新時代の発展をたたえた内容で、作曲には榎田栄清や長瀬勝男一らの協力があつたという。典型的な手事物形式で、前弾―前歌―合の手―中歌―手事―後歌という構成。前弾には山田検校作曲の「あづまの花」の前弾を取り入れ、合の手に「深夜の月」の手事の一部を、また手事の終りのほうには「残月」などにある旋律というように、古典曲のさまざまな類型的な旋律を借用しつつ、箏の手法も盛り込んでいる。

一、三曲笛 吹き女

深尾須磨子作詞、中島靖子作曲。昭和三十一年（一九五六）に作曲され、第四回中島靖子リサイタルで初演された。深尾須磨子の詩集『牝鶏の視野』の中の「笛吹き女」を、アルトのために作曲したもので、篠笛、尺八、箏、十七弦、それに打楽器として小鼓が加わり、伴奏をしている。

二、河東節 助六所縁江戸桜（助六）

金井三笑・初世桜田治助作詞、初世山彦河良作曲。宝暦十一年（一七六一）三月、江戸市村座初演。同名の歌舞伎十八番の芝居で、花川戸の助六が舞台に登場するときの音楽。それまでの半太夫節などを整理した決定版ともいえるべき浄瑠璃で、河東節のなかでも最も有名でかつ重要な曲である。いかにも宝暦期らしい江戸の気分に満ちた曲で、今日でも題名と同じ歌舞伎が上演されるときには、市川家から正式な依頼を受けて出演するきまりになっている。

三、新内節 鬼怒川物語 語・下（かさね身売り）

初代鶴賀若狭掾作曲。原作は義太夫節「伊達競阿国戯場」八段目、殖生村与右衛門内の後半。自分の顔形が醜くなったのを知らない累は、夫の与右衛門が主君のために金の苦勞をしているので、わが身を売って役に立てようとする。しかし自分の醜さと夫のやさしさを知り、死のうと駆け出すまで。累のクドキ「思えば思えば恥ずかしや」がきかせる。

四、常磐津 花舞台霞の猿曳（うつば猿）

中村重助作詞、五世岸沢式佐作曲。天保九年（一八三八）十一月、江戸市村座初演。狂言の「鞠猿」を脚色したものだが、大名と太郎冠者を女大名と色奴にし、二人を恋仲にしたところに歌舞伎舞踊らしい特色がある。

奴の橘平を共に鳴滝の八幡宮に代参した三芳野は、主人の命令で鞠にする猿の皮を調達しなければならぬ。そこへちやうど小猿が登場するので、捕らえて殺そうとする。猿回しは小猿を取られては生計が立たないといって断るが、三芳野は弓矢で脅す。しかたなく猿回しは、猿の急所を打って殺そうとする。殺されるのも知らずに船を漕ぐまねをする小猿を見て、命を助けてやるといふ筋。

五、義太夫 義経 千本 桜 — 鮮屋の段 —

二世竹田出雲・三好松洛・並木千柳合作。延享四年（一七四七）十一月、大阪竹本座で初演。「菅原伝授手習鑑」「仮名手本忠臣蔵」とともに、人形浄瑠璃の代表作。没落した平家の三人の武将知盛・維盛・教経を主人公にした物語。

三段目の「鮮屋」は人気の高い場面で、平重盛に恩を受けた弥左衛門は、維盛を弥助としてかくまっている。その弥助に思いを寄せている娘のお里は、祝言をすることになって喜んだが、はからずも維盛の正妻若葉の内侍が子供を連れて訪ねてきたので、悲嘆にくれる。今日は時間の都合でこの場面のみ演奏。

六、清元 道行 故郷の春雨（梅川）

三升屋三三治作詞、初世清元齋兵衛作曲。文政七年（一八二四）三月、江戸市村座初演。近松門左衛門の「冥土の飛脚」から生れた多くの作品から、「新口村」が知られていたが、それを富本で「道行恋飛脚」としていたのを、さらに清元に移したもの。

大阪の飛脚問屋亀屋の養子忠兵衛は、三百両の封印を切って遊女梅川を身請けするが、公金横領の罪で忠兵衛の故郷まで逃げて行く。その道行。

七、長唄 外記節 石橋

四世杵屋三郎助（十世六左衛門）作曲。文政三年（一八二〇）開曲というが、天保元年（一八三〇）開曲という正本もある。元禄（一六八八〜一七〇四）期に薩摩外記が「外記節石橋」を作曲したのが廃曲になり、正本だけが残っていたのを復活・作曲したもの。筋は第一部の二、一中節の「石橋」を参照。今日の演奏会のおしまいにふさわしい、勇壮かつおめでたい曲。

御 礼 邦 楽 連 合 会

本日はようこそお出かけ下さりまして、ありがとうございました。何かと不行届の点もございましたが、お許しを願ひまして、どうぞごゆつくりとお楽しみ下さいますよう、お願い申し上げます。

今までには、このようにして邦楽をまとまって鑑賞していただく機会は、少なかつたように思います。その少ない機会を大切にしようと、出演者も一生懸命でございます。これからもどうぞ続けて邦楽に変わらぬご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

来年はこの演奏会が三十回目を迎えますので、三月七日（火）に国立小劇場で開催する予定になっております。番組がきまりましたらご案内をお送りいたしますので、挟み込みのアンケート用紙に、おところ、お名前をご記入の上、受付にお渡し下さいますよう、お願い申し上げます。また、今日おきき下さいましたご感想、ご意見などもお寄せ下さいまして、よりよい邦楽のためにご指導を賜りますよう合わせてお願い申し上げます。ありがとうございました。